

電気料金の政府補助に関する意識調査

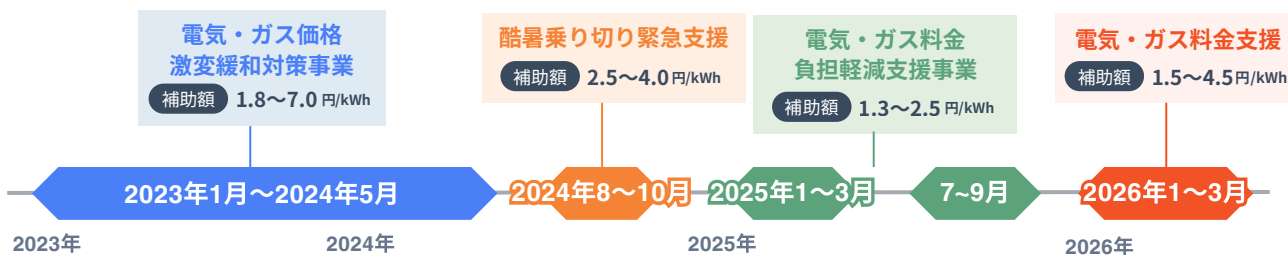
～補佐理解は14%にとどまり、終了後への備え不足が多数という実態が明らかに～

■ 調査概要

- 調査期間：2026年3月
- 調査対象：全国の20代～60代の男女203名（電気料金の支払いをしている方）
- 調査方法：GMO Askによるインターネットリサーチ
- 調査主体：株式会社クラシエルジュ

前提

■ 約3年・計4回にわたり断続的に続く電気料金の政府補助

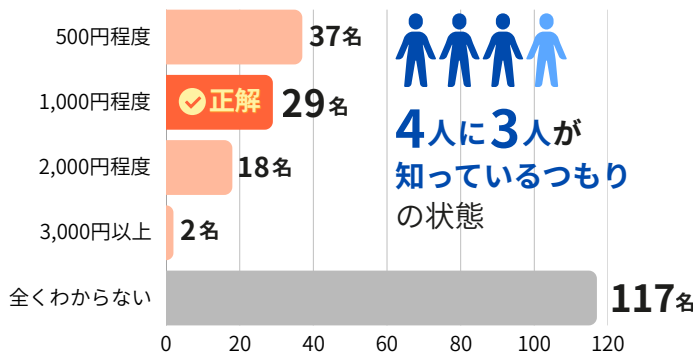


主要調査結果

調査結果①

補助額の正答率わずか**14%**
「知っているつもり」の実態

Q. 一般的な家庭（月260kWh使用）の2026年2月の電気代は補助によりどの程度安くなっていると思いますか？



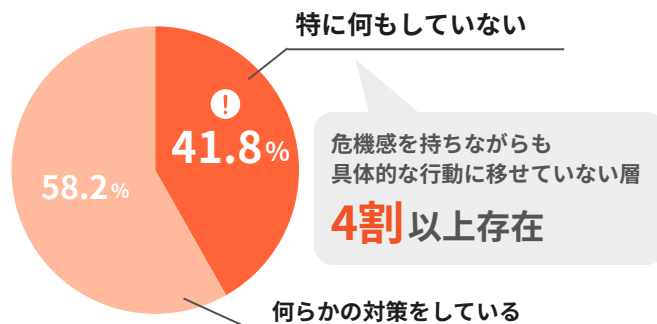
- 補助内容を「知っている」と答えた人でも正答率**25%**
- 補助終了を「全く知らなかった」が**49.3%**

調査結果②

「影響がある」と感じながらも
「何もしていない」が**41.8%**

Q. 補助終了後の電気代上昇に備えて、何か対策をしていますか？

※補助終了により電気代に「影響がある」と回答した153名



- 補助終了を「知らなかった」人の無行動率は**65.0%**
- 電力会社を実際に見直した人はわずか**3.0%**

【リリースに関するお問い合わせ】

株式会社クラシエルジュ

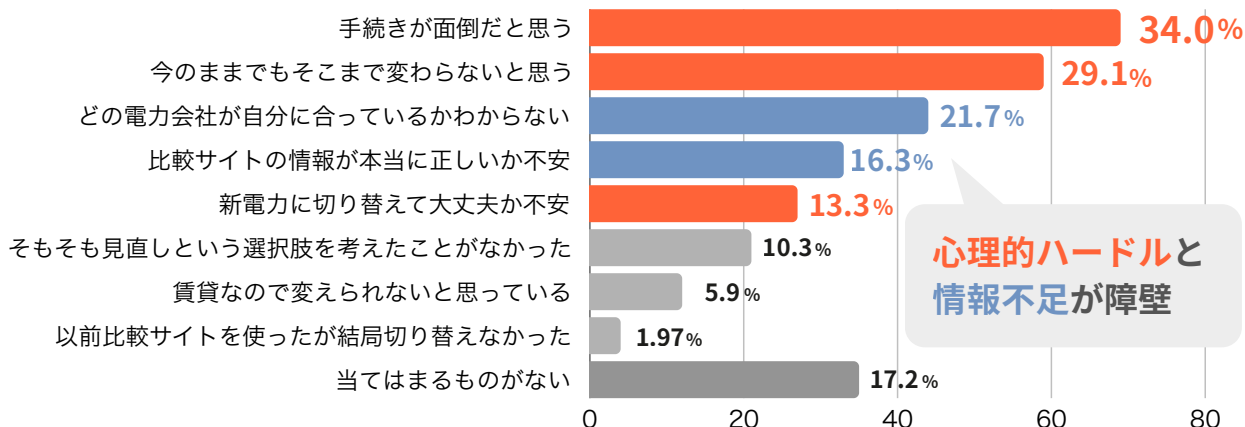
TEL：03-6804-0166

Email：support@cracierge.co.jp

電力会社・電力プラン見直しの壁は 「面倒」と「情報不足」

- ・不安の1位は「いくら上がるかわからない」72.9%
- ・「影響あり」の人に絞っても障壁の構成は同じ

Q.電力会社や料金プランの見直しについて、あてはまるものをすべて選んでください。



調査結果から読み解く3つの実態

実態①：「知っているつもりで知らない」

➡ 補助の存在は知っていても、金額も終了時期も把握していない。

実態②：「危機感はあるが動けない」

➡ 影響があると感じつつ、具体的な対策に踏み出せていない。

実態③：「動きたいが情報が足りない」

➡ 意欲の問題ではなく、比較・検討の環境が整っていない。

クラシエルジュが提供する3つのアプローチ

① 「いくら上がるかわからない」を解消

➡ 燃料費調整額を含めたリアルな請求額で比較。
補助の有無を踏まえたシミュレーションが可能。

② 「どこが合うかわからない」を解消

➡ 使用量に応じた最適プランを提案。比較条件を統一し、不公平な比較は行わない。

③ 「比較情報が信用できない」を解消

➡ 算出条件をすべて開示。試算の根拠を確認した上で契約判断ができる。

【リリースに関するお問い合わせ】

株式会社クラシエルジュ

TEL：03-6804-0166

Email：support@cracierge.co.jp